

公開講座
のご案内

平成20年度 がん医療市民公開講座

がんにならない がんにつけない

胃がんの予防疫学・早期発見・早期治療

日時

2009/ **2/28(土)**
14:00~16:00 (13:30開場)

場所

海峡メッセ下関
山口県国際総合センター
国際会議場 10階

内容

- 1 「胃がんの診断と治療」
●九州大学大学院病態機能内科学 講師 ●松本 主之氏
- 2 「胃がんにならないためには」
●九州大学大学院病態機能内科学 教授 ●飯田 三雄氏
- 3 胃がんQ&A (ご質問にお答えします)

主催 ●下関市立中央病院
後援 ●山口県 ●下関市教育委員会 ●下関市医師会 ●下関市連合婦人会
申込み問合せ ●お申込みは、電話・FAX等で申込まれるか、当院外科外来に備え付けの申込書をご利用下さい。 ※必要事項…住所・氏名・連絡先

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838



2009年 Vol. (平成21年) **2/15 36**
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
☎083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
ホームページ <http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/>

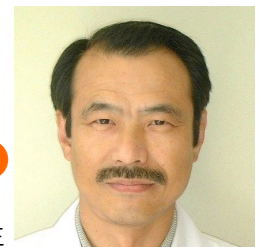
目次	1. 巻頭言 院長 小柳 信洋 …… 1	4. 部門紹介 検査部技師長 谷口 正則 …… 3
	2. 登録医の声 林内科 長岡 榮 先生 …… 1	5. 新任紹介 …… 3
	3. トピックス 産科婦人科部長 川崎 憲欣 …… 2	6. ご案内 …… 4

巻頭言

院長 小柳 信洋

病院経営環境の厳しさに変わりはないままに、20年秋以降もうひとつの重要課題が中央病院に降りかかっています。退職医師の補充が困難という難題です。医療はサービス業だといわれますが、いくら優秀なコメディカルや最新の医療機器を準備していても医師がいなくてはサービスの提供は出来ません。少々の経営赤字であれば対応の仕方はいろいろ考えられますが、医師がいないことには話になりません。最近の病院閉鎖理由の多くは医師不足です。残った医師には負担が増えていくことになり、更なる医師退職の理由となります。以前より医師不足が問題となっていたことは十分認識はしていましたが、今回退職医師の補充のために各大学を回ってみて再認識させられた次第です。ある教授との話の中で、その原因は新臨床研修制度発足のときの“失われた2年間

(大学入局なし)”のためであろうということになりました。当時入局していれば、ちょうど今大学病棟の中堅として働いていたはずなのです。なお、ここ1~2年の入局数は増加してきているようですのでしばらくの辛抱ということかもしれませんが、その間中央病院が提供する医療サービスのレベルを下げるわけには行きません。登録医の先生方にはご心配をお掛けしていた循環器内科および放射線治療医の補充問題ですが、つい先日、やっと目途がついたところです。その他の診療科についても医師確保が院長の最大責務との覚悟で今後とも頑張っていきたいと考えております。今後とも先生方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



林 内 科

院長 長岡 榮 先生

登録医の声

平成21年1月から田中町の林内科を継承しました長岡です。早速、登録医の声の原稿依頼を受けました。御挨拶をかねて投稿させていただきます。
昭和61年の6月に中央病院に着任して以来、22年半の長きにわたり多くのスタッフの方々のご協力により無事勤めることができました。30才台前半から50才台前半の医師として最もactivityの高い時期を中央病院で勤務し、育てて頂いたことを感謝いたします。平成10年から平成16年まで医師会理事を務めさせて頂きました。また、平成14年からは地域医療連携室を担当させて頂きました。この経験は私にとって地域医療・医療連携の大切さを学ぶ上に大きな経験になりました。
医療改革(改悪)が急速に進み、迅速な対応が必要となっています。様々な規制のある自治体病院は岐路に

立っています。しかし、下関市に於ける中央病院への期待、果たすべき役割は大きく、急性期病院、がん拠点病院として今後も頑張りたいと思います。
今後は、登録医として外から、中央病院に協力させて頂きたいと思います。当院は16列MDCTとマンモグラフィを新たに導入し、各種がんの早期発見に努めてまいります。治療の必要な患者さんはできるだけ中央病院にご紹介させて頂きたいと思います。早速、数名の患者さんの入院治療をお引き受け頂き感謝いたします。ご多忙とは存じますが、今後とも快く引き受けて頂きたいと思います。最後になりましたが、平成21年4月より医院名を「長岡内科・画像診断クリニック」とする予定です。宜しく願いいたします。

平成21年4月2日より 全面 院外処方へ

下関市立中央病院では、平成21年4月2日から原則として外来患者様は、すべて院外処方になります。ご理解をお願いします。(門前薬局も同時に開局となります。)

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

083 224-3860 083 224-3861

編集後記

寒中お見舞い申し上げます。
世間では医療崩壊が叫ばれ、医療を取り巻く状況はますます悪化し、医学教育制度だけでなく、後期高齢者医療制度、特定健診制度など国の医療政策の誤りが現場に混乱を招いていると言わざるを得ません。
当院でも新臨床研修医制度の影響で困難が予想される中、この1月より地域連携室々長の役を引き受けることになりました。皆様のご要望に十分に答えることはできないかもしれませんが、微力ながら誠心誠意がんばっていきたくと思っています。今後とも皆様方の温かいご支援をよろしく願いいたします。
坂井 尚二

下関市立中央病院に移って4ヶ月余り経ち、病院環境にも大分慣れて参りました。この度は機会が与えられましたので、私の診療分野に関して、少しご紹介させていただきます。

私は昭和56年の熊大卒・同大産婦人科入局で、妊娠中毒症(現在の妊娠高血圧症候群)の予防関連の仕事で学位を取りました。その過程での生理分野の仕事は、Williamasのtext. (Obstetrics)にも引用されたりしましたが、卒後10年程は周産期医療を主に研鑽致しました。市中病院に出てからは、患者のニーズもあり、産婦人科全般(即ち、周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性のヘルスケア等)に対応すべく努力してやってきました。

周産期医療に関しては、今や、従来の産科医療提供体制が維持困難となってきて、いわゆる集約化ということが進められております。下関医療圏では、NICUを持つ済生会下関病院が地域周産期医療センターの役割を果たすべく整備が進められているようですが、ペンション的な個人経営の産科施設と地域周産期センターとの間に、センターを補完するような公的施設が、地域医療を円滑に展開していく上で必要となる場所です。当院には、複数の産科医、小児科医をはじめ、比較的多くの助産師がおり、その役割が十分果たせるものとみられますし、スタッフと共に使命を果たすべく頑張っていきたいと考えております。妊婦様方に、安心・安全かつ快適なお産をして頂く、新しい命を生み出す感動を味わって頂きたい、そして、それを育児のパワーに代えていって欲しいと願って、この分野の診療に携わっておりますが、次世代を支える方々の誕生に関われる事に喜びを感じています。

婦人科腫瘍分野のうち癌診療に関しては、子宮頸癌・体癌、卵巣癌が多くを占めています。日本のがん医療については、新しい診療体制の構築をめぐる諸種の施策が講じられつつあると捉えています。第一線の私達もそれを念頭において対処すべきと思います。日本がん治療認定医機構が立ち上がり、全科的にがん治療にあたる医師の基本的な資格を規定する認定医制度が2007年度より動き出しました(日医雑誌137巻2号)。私も初年度の試験にパスし、がん

治療認定医の資格を得ることができましたので、これをバックボーンに診療展開しています。婦人科の主なる3つの癌に対して、取り扱い規約ばかりでなく、治療ガイドラインも関係学会のまとめで世に出てきていますので、基本的にはそれらに則って診療を進めていますが、初期治療の時から緩和ケアの事を考え、患者および家族の人生観(死生観)を理解し尊重して対処したいと考えています。良性腫瘍に関しては、基本的にinformed choice様式で治療法を選択しています。良性卵巣腫瘍では、腹腔鏡補助での腫瘍摘除術も選択肢の一つに入れております。

生殖・内分泌分野では、子宮内膜症の診療も幅広くなってきましたが、腹腔鏡下手術も含め患者の生活背景を十分考慮した治療を選択・実践しているつもりです。性成熟期婦人のQOLを考慮した月経異常への対処、調節等にはいわゆるピルが有用で、避妊以外の副効用を狙った処方も比較的多く行っております。不妊症患者への生殖補助技術の適応については、私の価値観・倫理観の面から、カウンセリングに止まっています。

女性のヘルスケア分野では、性器感染症や更年期医療等が対象になりますが、高齢化社会を迎え、高齢女性のQOLを如何にして守り維持していくかはプライオリティの高い課題の一つとなっています。女性におけるエストロゲン欠落の意義と加齢の相互関係を理解して、それをベースに医療が展開されるべきものと考えて対処しているつもりです。試験を受けて抗加齢医学会認定専門医の資格を得ましたが、加齢の医学に基づくanti-agingの面からもアプローチしているところ(アンチエイジング医療は各科領域に跨るものであり、ご興味のある方は、一緒に勉強してみませんか?)。

以上、些か簡単ではありますが紹介させて頂きました。高度医療という程にはいきませんが、地域の産婦人科医療において、私の力の及ぶところで少しでも多くの貢献ができれば幸せだと考えております。ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

検査部は現在、臨床検査技師(臨床工学技士を含む)29名で、1階の外来検査室(一般検査、血液検査、血液管理センター)と生理検査室、地下の免疫血清検査室、生化学検査室、細菌検査室、病理検査室、2階の透析センターの9部門から構成されています。

院内で行う検査は正確なデータを可能な限り、適切な時間(検体検査であれば30分~1時間、生体検査では20分以内)に的確に報告することを日々心がけています。

また、院内検査の項目を吟味し、外注検査との線引きをしています。緊急度の高い検査や件数が少なくても患者様に生命の影響があるものは、外注をせず院内で実施するようにしています。なお検査部では4名が臨床工学技士の資格を持っているため、幅広く踏み込んだことにまで対応しています。機器で測定し数値を出すだけの検査から、機能的で効率的な検査を目指そうと意識改革に努力しています。検査結果が医師に届きどのように評価されたかを知る為にカルテを見たり、一部カンファレンスにも参加しています。特に超音波検査では十分にカルテを見た後、検査を実施しています。これらは、自分達の仕事の評価の確認でその様な意識を持つことは自ずと検査結果の質の向上につながると思われま

す。検査の効率化を進めるには、配置や担当者を変えるだけでは十分とは言えません。検査部の目標を達成するために、地下の検査室では免疫血清、生化学、細菌検査を統合し、

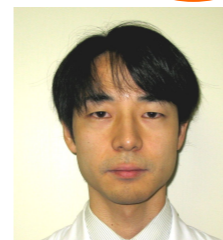
ローテーションを行いました。オールラウンドに対応できるスタッフの育成を図るとともに、検査の質が一定となり流れの単純化につながると期待しています。

検査業務以外の院内活動としては、感染管理委員会、輸血療法委員会、NST活動、リスクマネジメント委員会、医療事務検討委員会、医療機器等検討委員会などへの参加や院内講演、学習支援活動として研修医、新人看護師、救急救命士、東亜大学臨床工学部学生の研修、栄養士学生の見学などを行い、院外活動では臨床検査技師会で学会の座長任務や演者、「やまぐち健康フェスタ」、「みんなの健康のつどい」、「市民健康のつどい」などの参加、各学会を始め研修会、勉強会などに積極的に参加し、能力の向上、自己研鑽の投資に努力しています。

理想の検査技師は、オールラウンド+α(自分の専門)の能力がある技師として、検査部は「α」を身につけている段階に進みつつあり、チームワークで仕事を行い、コミュニケーションをはかっています。チーム医療を円滑に遂行するためには他の部門との協力体制、特に医師、看護師、事務職員とのコミュニケーションは非常に大切です。また、収支に関して売り上げや収益の変化、分析にさらに力を入れています。検査部は常に病院に対して「何が出来るか」を考え、院内、院外で様々なことに取り組んで地域医療に最善を尽くしています。



新任紹介



放射線科
加藤 雅 俊

今年1月から放射線科医として当病院に赴任することになりました。それまでは研修医として福岡済生会病院で2年間研修し、その後山口大学の放射線科に入局しました。大学に在籍した頃は、読影を中心に、IVR、消化管透視、気管支鏡、上下部内視鏡などの業務に携わっていましたが、当病院でも読影以外に様々な業務があり、中には経験したことのない手技もありました。それらの手技にも早く習熟して病院に貢献できるよう努力していきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。